

生体肝移植ドナーの肝提供手術後の長期的予後について —術後1年以上経過したドナーの身体的問題について—

研究機関名：

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

研究者名：

責任者 師岡 友紀（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 講師）

分担者 梅下 浩司（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授）

研究概要：

【目的】本研究は、生体肝移植ドナーの方々の長期的な予後を明らかにすることを目的としています。生体肝提供術は比較的安全性の高い手術とされ、手術後の健康状態も良いとされています。一方で、術後数年経過しても複数の症状を抱え負担を感じておられる方もいらっしゃいます。本研究では、実際にどれくらいの方々がどのような症状を感じておられるか、検査値の異常の有無はどうかを把握しようとするものです。

【方法】大阪大学医学部附属病院で生体肝提供手術を受け一年以上経過したドナーの方を対象として、対象の方々が同病院のドナー外来を受診された際に主治医にお伝えになった創や腹部の状態、消化器症状など症状や血液検査の結果などを、診療録（カルテ）から抽出し収集します。具体的には以下のデータを診療録より収集します。

1998年～2015年12月に生体肝提供術を受けられたドナーの方々の肝提供手術に関するデータ、および術後1年以降の外来受診を行った際の以下のデータを抽出します。併せてレシピエントの方の移植時年齢、予後などのデータの収集も行います。

性別、手術時年齢、レシピエントとの関係、手術に関するデータ（手術日、術式、合併症の有無など）、創、腹部、消化器症状に関するデータ、血液検査項目 T-CHO(mg/dL)、AST(IU/L)、ALT(IU/L)、 γ -GTP(IU/L)、など、外来を受診された際の検査結果および診察結果。

【意義】これまで報告されてきたドナーの方々が自覚する症状について、客観的なデータにより実態が明らかになります。また、肝切除を行ったことによる長期的な影響の一端が明らかになると考えられます。また、そうしたデータを統計的に分析することで症状の予防や健康管理に関して術直後から継続した支援が可能になると考えます。

【研究期間】2016年8月～2019年3月31日

研究の開示：

本研究は、ご希望に応じて、研究結果を開示いたします。この研究について、さらに詳しい内容を知りたい場合は、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画、方法および結果についての資料を見ることができます。希望される場合は、以下の相談窓口にご連絡ください。

個人情報の扱い：

本研究のデータは個人のお名前を削除し匿名化した状態で管理をいたします。

研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法：

本研究の参加を辞退したい場合には、以下に記載の相談窓口に連絡することによって本研究への参加を拒否することが可能です。なお、研究終了後（2019年3月31日以降）、および2017年3月以降で既に研究結果の一部を発表している場合など、ご希望に沿えない場合がありますのでご了承ください。

相談窓口：

住所：吹田市山田丘 1-7

電話：06-6879-2545（留守電あり）、原則平日 10 時～16 時対応可能

メール：laneige@sahs.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 師岡友紀（もろおかゆき）

以上